

課題調査部会のお話から 避難所の実状、「互近助」「在宅避難の備え」のすすめ

■大災害時こそ重要な「互近助」

中原区では、28 の小中学校等が「避難所」に指定されており、それぞれの避難所で運営会議の組織化、開設訓練などの取組が進められています。

しかし、避難所の施設や収容人数、備蓄、担い手には限界もあり、規模が大きな災害の発生時ほど、まず自分の身は自分で守る「自助」、そして身近な地域で助け合う「共助」が重要になります。防災アドバイザー山村武彦氏が提唱する「互近助」には、区民会議委員も大変感銘を受けています。

■在宅で「避難生活」できるよう備えよう

避難所は決して「快適な所」ではありません。また多くの住民が殺到すれば、あっという間に「パンク」します。

災害発生後、電気・ガスなどのライフラインが止まっても、建物倒壊等の恐れや健康上の大きな不安等が無い場合は、自宅で快適に生活し続けられる様、家具の転倒防止や備蓄など「在宅避難の備え」を普段からしておくことを、より多くの区民に呼びかけていきたいところです。



※非常時には持ち出せるようにしておくが良い。

家庭での備蓄（在宅避難の備え）の例

水・食糧…3 日～1 週間分。普段購入している日持ちするもので OK。

安全…懐中電灯・軍手・ヘルメット・運動靴 など

医療・衛生…簡易トイレ・ウェットティッシュ・薬・オムツ・生理用品 など

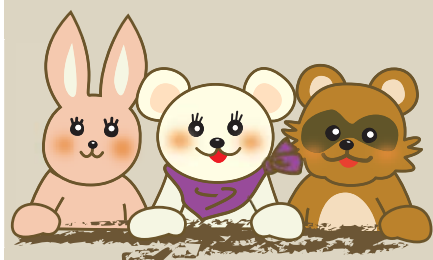
衣類・防寒…防寒着・着替え・雨具・シート・毛布・手ぬぐい など

便利・道具…ポリ袋・食品用ラップ・ナイフ・時計・卓上コンロとボンベ など

貴重品・情報…ラジオ・電池・印鑑・保険証・現金 など

参考：「備える。かわさき」「高層マンション防災対策の手引き（品川区）」

区民会議の今後



第 4 回 第 6 期中原区区民会議（全体会議）

平成 29 年 3 月 23 日（火）14 時 30 分～
中原区役所 5 階会議室

審議テーマ「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」の取組提案をまとめると共に、二つ目の審議テーマを検討します。（予定）

※区民会議の会議は、傍聴が可能ですので、ご関心・ご興味のある方はぜひお越しください。

※過去の会議の概要・資料等は、中原区のホームページにも掲載されています。

<http://www.city.kawasaki.jp/nakahara/category/97-10-1-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

お問い合わせ先

中原区区民会議事務局（区役所企画課）

〒211-8570 中原区小杉町 3-245

電話：044-744-3149 FAX：044-744-3340

E-mail: 65kikaku@city.kawasaki.jp

区民会議へのご意見なども…おまちしています！

中原区区民会議
キャラクター
たぬきくん



審議テーマ

「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」

■今こそ、「災害に強い」まちづくり

第 6 期中原区役所会議室の一つ目の審議テーマが「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」に決定され、調査・審議が進んでいます。

転入者が多く、住民が多様化している中原区の現状や、先の熊本地震等による防災意識の高まり等を踏まえ、地域で災害に強い、助け合いのまちづくりを今一度、つくりあげていこうという委員の思いがこめられています。



■ユニバーサルな視点で未来につなげよう

オリンピック・パラリンピックに向けた魅力発信や歓迎のまちづくりも審議テーマの有力候補でした。しかしまずは、災害時にも安全で移動・案内のしやすいまち、弱者支援や情報共有、相互理解推進などのユニバーサルな視点で防災にアプローチしていくことで、将来的にそうした課題の解決にも繋がると考えました。

■課題調査部会による審議

9 名の委員による課題調査部会を発足させ、これまで計 4 回の会議で、集中的に課題や現状の把握、課題の解決に資する取組提案の検討を進めています。

詳しくは次ページへ

「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」

■課題調査部会メンバー

地域の自主防災組織や外国籍市民の支援などに関わる委員も含めた 9 名の委員が、活発に意見交換しながら、調査・審議を進めてきました。

井上委員（部会長）、梅原委員（副部会長）、伊藤委員、内田委員、児玉委員、鈴木（晴）委員、関口委員、田邊委員、中森委員

課題

全分野の共通課題

当事者意識の醸成・啓発

弱者支援

課題分野：防災情報の発信・伝達

■無知層・未経験層の存在

防災に関心はあるけど…

知識が無い方、行動に移せない方、
どうしたらいいかわからない方、
防災訓練等に出たことが無い方 など

■情報弱者の存在

様々な理由で防災情報が届いていない…
外国籍（言語ハンディ）、転入者、
情報機器弱者（高齢者など）、
災害発生後の車中・自宅避難者 など

課題分野：避難所の運営・開設

■避難所開設・運営体制の充実

避難所運営の担い手の確保・育成
地域単位での運営体制の確立

■避難所の認知・正しい理解の推進

場所等の基本情報の不認知
機能・運営に関する不認知

課題分野：災害に強いまちづくり

■わかりやすい案内

■バリアフリー

避難・救出しやすい環境づくり

課題調査部会審議・委員の意見

●防災訓練など防災に触れる場への参加の「きっかけづくり」が重要。

●既存の活動・訓練に参加していない
高齢者や無関心層を巻き込みたい。

●恐怖感は煽りたくないが、**危機感を
より多くの区民に**持ってほしい。

●情報弱者とは誰で、どこにいるのか
分析し、**効果的な情報提供**を行いたい。

●自分の地域の**避難所を知らない区民**
もまだ多い。

●ただ参加するのではなく、より高い意
識で**避難所運営の担い手**を育成して
いかなければならない。

●日中に災害が発生した場合、**区内の
中高生も重要な共助の担い手**だ。

●「避難所に行けばなんとかなる」と思
われては困る。**自助・共助に関する
主体性を育み、備えを促したい。**

●地域や避難所で安否確認をより速や
かに行うためのツールや方法が必要
だ。



井上部会長



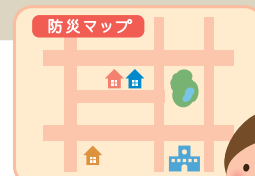
田邊委員



関口委員



伊藤委員



「課題解決の提案」は運営部会
や全体会議での協議を経て最
終的にまとめられ、平成 29 年
4 月に区長に中間報告・提案
する予定です。



課題解決の方向性

▶無知層・未経験層の存在

広報物、メディアの活用
防災・地域情報の発信・共有
キャンペーンや啓発イベントの実施
モデル取組の設定



▶「互近助」関係づくり

地域内で日常からの世代交流の推進
身近な弱者の把握と情報共有
「お世話できる側」の拡大（外国籍市民など）

▶災害前からの備え・対策

家庭内備蓄等の推進
防災訓練参加のきっかけづくり
季節・時間等様々な状況想定訓練の実施

▶避難所開設・運営訓練の充実・強化

運営体制の確認・強化
避難所の機能や生活の体験



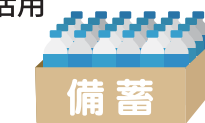
▶担い手の発掘・育成

中高生世代・退職世代の育成
企業との連携
知恵や技能をもった区民の発掘・活用
リーダーの育成

▶避難所機能の強化

安否・避難状況確認等の機能強化
弱者対応の体制・機能強化
情報伝達のしくみづくり
被災地の事例・経験の調査・活用

▶サイン整備



参考事例

他都市事例等も参考にしながら、取組提案の検討を進めています。
一例を紹介いたします。

▶避難所運営ゲーム（HUG）

静岡県開発の避難所運営を模擬体験するゲーム。区内でも実施例が増加中

▶合志市防災マップ

熊本県合志市がゼンリンと協働事業により発行した冊子型の防災マップ。
被害想定、備えや対策、加筆可能な小地域マップ等を総合的に掲載。

▶無事ですカード

より円滑な安否確認のために、玄関先に「無事です」の掲示を出す取
組（高津区などでも実施例がある。）

委員の意見、検討中の取組など

●いかに**危機感・防災意識を継続**させる
かが重要。

●地域の**防災情報を発見・共有できる
ワークショップや地図づくり**が多世
代できると良い。

●ローリングストック法など各家庭で
できる**備えをもっと啓発**したい。

●ただ見学するのではなく、**体験型の防
災訓練**の機会を増やしたい。

●地域で**罹災経験者の実体験**を伺って、
意識が高まった事例がある。

●**防災キャンプ（合宿体験訓練）**は親子
でも参加でき、良い思い出になる。

●ボーイスカウトなど、**地域の青少年団
体と連携**できないか。

●多くの区民の親子が参加するフロン
ターレのサッカー教室などの**既存の場
に防災体験を盛り込む**ことができれ
ば、よい「きっかけづくり」になりそ
うだ。

●**避難所の仕切り役**が必要。「危機管理
士」の資格をもっていれば、誰にでも
認められやすいのではないか。

●避難所の登録カードなどは、外国人等
にも**わかりやすく、書きやすく、安否
確認等しやすいツール**としたい。

●公共のトイレや水場の場所は災害時に
限らず区民が知りたい情報ではない
か。



梅原副部会長



中森委員



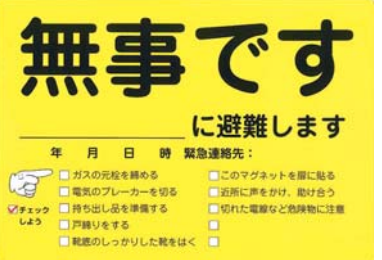
児玉委員



内田委員



鈴木委員



無事ですカードの例